

データで知る

情報源で最も利用されたのは「安心安全メール」

熊本地震を踏まえ、今後の防災行政に活用することを目的にアンケートを実施しました。質問内容は、利用した情報源や情報の理解度、日頃の備え、自由意見など全8問。広報紙、メール、ホームページで回答を受け付け、10代から90代の市民約400人から回答がありました。

利用した情報源で最も利用頻度が高かったのは安心安全メールで、「無線が聞こえないときに助かった」「自動で届きメモも要らないのが良い」などのご意見がありました。情報の理解度は「分かりやすかった」と「大体分かった」を合わせると84%という結果でした。

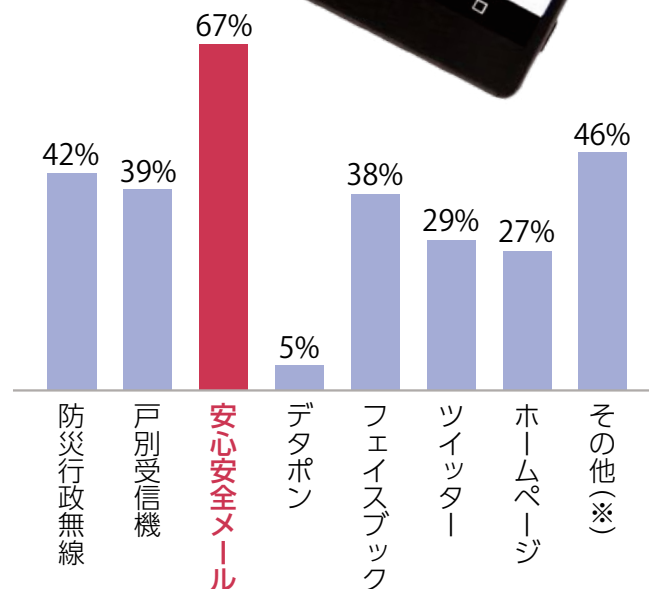
分かりにくかった人のご意見として「無線が聞こえない」「ホームページの情報が検索しにくい」「避難所や通行止め場所が分からない」「メールの誤配信が多い」などがありました。いただいた貴重なご意見は今後の防災行政に生かし、さらに効果的な情報発信につなげていきます。

詳しいアンケート結果はホームページに掲載していますのでご覧ください。(http://www.city.kikuchi.lg.jp/q/aview/256/11857.html)

菊池市 防災アンケート

検索

QRコード



▲市民が利用した複数の情報源に対して最も利用頻度が高かった情報源の割合

※テレビ、ラジオ、インターネット、LINE、消防団、知人、地域など

安心安全メールに登録を！

緊急事態の防災・防犯情報の他、暮らしの情報、教育、文化、スポーツ、観光、イベント情報なども配信しています。ぜひ登録ください。

登録手順

- 1 携帯「メール」画面を開き「新規メール」「新規作成」などを選択。
- 2 「メール作成」画面を開いたら、宛先(To)に直接「kam@123123.tv」と入力し、空メールを送信。
- 3 10分程度で「菊池安心メールのご登録」というメールが届きますので、メールを開き、文章の下段にあるURL(アドレス)を選択してください。
- 4 「会員登録」画面を開いたら、各自当てはまる項目にチェックして「登録」を選択します。

メールが届かなくなった人 送信しても返事が来ない人へ

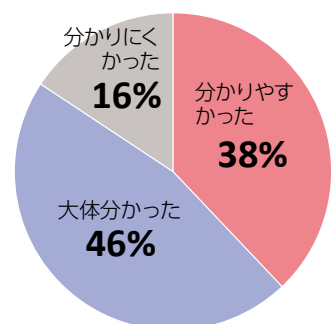
迷惑メール対策やインターネットからのメール拒否が考えられます。「ドメイン指定受信設定」で確認してください。ドメイン指定受信設定方法はホームページに掲載していますのでご覧ください。



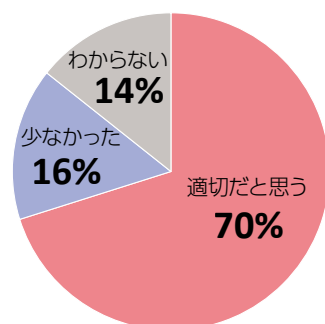
QRコード↑

【問い合わせ先】市長公室 ☎0968(25)7200

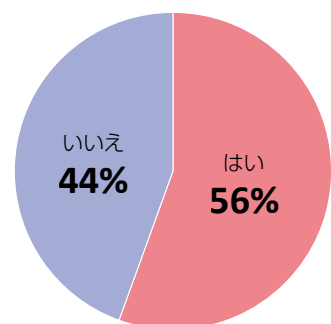
情報の理解度



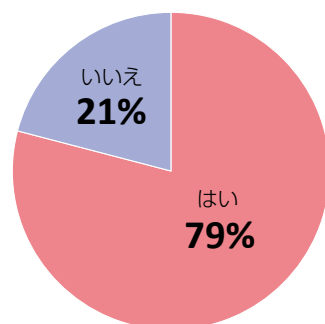
情報の配信回数



普段から災害に備えていますか



備えは熊本地震で役に立ちましたか



地震はいつどこで起こるか分かりません。仕事の場合、夜の場合など家族でどのように連絡を取り合うか、どこに避難するかなどを話し合っておきましょう。地域でも高齢者や体の不自由な人の避難をどうするか、避難所や身近な安全な場所はどこかなどを決めておきましょう。

家族や地域でルールを作る

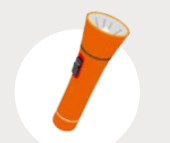
熊本地震では、本市でも多くの人が負傷されました。倒れたガラスや陶器で足を切った、暗くて足元が見えず転んでけがした、などがあります。こうした被害のほとんどは、事前に対策することで防止したり軽減したりできます。

まずは屋内の被害対策から

できることから

室内での主な防災対策

- ① 寝室にはできるだけ背の高い家具を置かない
- ② 背の高い家具やテレビがある場合は、柱や壁などに固定する
- ③ 重い荷物はできるだけ棚の下段に置く
- ④ ガラス窓にはガラス飛散防止フィルムを貼る
- ⑤ 懐中電灯の置き場を決めておく



飲食物は1週間分の備蓄を

人は1日2〜3リットルの水が必要といわれています。熊本地震では2週間ほど水が濁って飲めない地区もありました。南海トラフ地震のような大災害が発生した場合は、支援物資が行き届かない可能性もあります。このため、1人当たり1週間分程度の飲食物の備蓄が必要です。

出前講座実施中

防災に関する出前講座を行っています。防災交通課までご連絡ください。

事例② 泗水小防災キャンプ



みんなで協力しながら炊き出しにチャレンジ

自分たちで生きる力を
泗水小学校で10月15日と16日の二日間、避難所生活を想定した防災キャンプが開催され、同小6年生の児童と保護者ら約130人が参加しました。熊本地震の体験を踏まえ、大規模災害時に子どもたちが自ら生き抜く術を学んでもらおうと、保護者が初めて企画。毎年行っているナイトハイクを変更して実施しました。
児童たちはまきを割って火をおこし、炊き出しに挑戦。大人から指導を受けたり友達と助け合ったりしながら、避難所生活を模擬体験しました。火おこしを初体験した轟木義斗くんは

避難所でも自主的に行動できるように

支援物資と経験を共有

体育館には復興支援で市に寄贈されたポータブル蓄電システムが設置され、実際にスマートフォンや充電を試しながら使い方を学習。壁には地震の記事が載った新聞や、児童が作った防災情報のポスターなども掲示されていました。



寄贈されたポータブル蓄電システムの使い方を親子で確認